

ほっかい新報

2007年 週刊 月3回発行

9月16日 (第1714号)

発行所
ほっかい新報社
060-0806 札幌市北区北6条西7丁目
電話 011(726)4858
北洋銀行(普)0576770
Eメール:hokkaiinp@hokkaiinp.co.jp

定価
月ぎめ 230円(1部80円)
(〒120円)
年ぎめ 2,760円(〒1,440円)

国際先住民の日 記念事業開く

—道ウタリ協会主催

国連で『先住民族の権利に関する宣言』採択の見通し

宮内聡・党国会議員団道事務所長もアピール行進に参加



07・9・8大通り



タリ代表は、「権利宣言が採択されると、日本政府は、これまでの歴史を見直し権利を回復する」作業がもたらされる「など権利宣言の意義を語りました。」

次いで、加藤忠・ウタリ協会理事長と阿倍司・同副理事長が、国連報告をおこないました。

宮内聡

記念事業に参加して

北大教授らとともに、宮内聡・党国会議員団北海道事務所長があいさつしました。北大教授らとともに、宮内聡・党国会議員団北海道事務所長があいさつしました。北大教授らとともに、宮内聡・党国会議員団北海道事務所長があいさつしました。

宮内氏は、あいさつを終えた後、記念講演を聞き、市内アピール行進でも最初から最後まで歩き通し、参加者と交流しました。

住まいの方から「ウパシクマアイヌの智慧を聞かせてもらっていますので、アイヌの人々は北海道という厳しい自然の中で歴史的に独自の文化をつくりあげてきた先住民族に相当すると思っています。」

これからは、民族としての権利を保障し、アイヌ文化の保護と保存、いっさいの差別の排除、生活に対する対策を実施すること、アイヌ問題を調査・審議する機関として国に「アイヌ問題審議会」を、北海道と

日二回、憲法の話をして、「いろいろな問題を憲法の立場から考えてみよう」と、参加者に呼びかけました。

第二分科会では、元自衛官を講師に、さっくばらんに語り合いました。

プロジェクターで訓練の様子を見た後、輪になって自衛隊での訓練のこと、隊内での生活などの経験を聞きまし

た。

SNICE NINET HANKOS

青年が平和ユースキャンプを開催—月形町皆楽公園

九月八日、九日の二日、月形町皆楽公園で、北海道平和委員会青年協議会と民青同盟北海道委員会、北海道民主商大会青年部などで構成された実行委員会が企画した平和ユースキャンプが開催されました。

このユースキャンプは、平和友好祭を引き継いで五年ぶりに開かれたもので、夏

の参議院選挙に立候補した、日本共産党の島山和

活動の交流と学習

初日は、原水爆禁世界大会や矢野別平和盆踊り、反核平和自転車リレーなど、道内外で開催された平和活動に参加した人たちが

ら報告が行われました。自転車リレーに参加した吉岡俊介さん(三三三)は、「みんなで衣装をそろえ、自転車に乗ると注目を集めた」と報告しました。

原水爆禁世界大会や矢野別平和盆踊り、反核平和自転車リレーなど、道内外で開催された平和活動に参加した人たちが

は、二つの分科会に分かれて学習しました。第一分科会は、北海道憲法改憲反対運動推進センターの大地蔵・事務局長を講師に、「憲法入門」講座がおこなわれました。

第二分科会では、元自衛官を講師に、さっくばらんに語り合いました。

プロジェクターで訓練の様子を見た後、輪になって自衛隊での訓練のこと、隊内での生活などの経験を聞きまし

た。

女性自衛官へのセクハラ問題についての質問が出されました。

「自分がいた時は、女性自衛官との接触は厳重に管理されていた。いまは変わって、だいたい自由だ」と答えました。

また、「自衛隊は違憲だ」とも、平和のことを周りの友人などと話し合うことが、政治への希望を持っていく政治にはいかならない。何として

も政治をかえなければ、と思うほど、またひたひたと力か湧いてきて、「やっぱり休んではいけない……」

▼誕生日に長男からメールが「健康に気をつけて、まだこれからの人生を楽しんでください。忙しいような日々だけれど、その生き方を尊敬しています……」と

少し目をウルウルさせて家に戻ったら、テーブルの上に大好きなバラの花が。失業中の息子からでした。

あれ！連れ合いさんのはず。退職後田舎で一人で暮らしている彼からは枝豆ととうきびとジャガイモが……。「お父さんに感謝を言いたいよ」との息子の言葉を背に頑張らなくちゃ……。

長男が五才の時、から働きつけ、足腰の衰えを感じつつ(加えて目も耳も……)頑張ってくるのが出来たことをありがたいなあと思う日々です。

▼(もうそろそろのんびり……という気持ちもなくなっている……)とどうとう、五十才代最後の誕生日を迎えてしまいました。▼年を重ねるごとに、一日一日が早く感じられるのです。

が、「私じゃこんな年まで生きてしまつて……いつ死んでもいいだよ……」が口癖の九十一才の義母の年まで何と三十年もあるではありませんか。

▼憲法を変えて戦争への道をひた走る安倍自公政権。長生きしてきた人たちが容赦なくいじめつづける政治。若者が未来に希望を持っていく政治にはいかならない。何として

も政治をかえなければ、と思うほど、またひたひたと力か湧いてきて、「やっぱり休んではいけない……」

▼誕生日に長男からメールが「健康に気をつけて、まだこれからの人生を楽しんでください。忙しいような日々だけれど、その生き方を尊敬しています……」と

少し目をウルウルさせて家に戻ったら、テーブルの上に大好きなバラの花が。失業中の息子からでした。



キャンプを通してさまざまな交流ができた

赤旗の日曜版
定価800円(税別) 1部100円
日本共産党中央委員会発行

